

総務省独立行政法人評価委員会 第6回統計センター分科会

1. 日 時 平成16年7月22日(木) 10:00~11:50

2. 場 所 総務省第2庁舎6階 特別会議室

3. 出席者

(分科会所属委員)

分科会長 溝口敏行

分科会長代理 堀部政男

委員 篠塚英子

臨時委員 佐藤修三 鴫田正春 藤原まり子 森末暢博

専門委員 小笠原直 小巻泰之 椿広計 大場亨

(総務省統計局)

大林統計局長 山崎総務課長 福田企画調整担当補佐

(独立行政法人統計センター)

中川理事長 鈴木総務担当理事 鈴木製表担当理事 水口総務部次長

佐伯総務課長

4. 議 題

(1) 統計センターの15年度業務実績に関する評価について

(2) 統計センターの15年度財務諸表の承認について

(3) その他

溝口分科会長 ただいまから第6回総務省独立行政法人評価委員会統計センター分科会を開催いたします。

では、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

本日は第1議題といたしまして前回に引き続き、統計センターの業務実績に関する評価調書等について審議いたします。

各委員におかれましては、担当別に項目別の評価を進めていただき、大変お忙しいところありがとうございました。その評価調書が事務局に提出されておりますので、この項目評価結果を踏まえ、本日分科会として評価調書案を決定いたしたいと存じます。

では、評価調書につきまして、事務局から御説明お願いいたします。

福田企画調整担当補佐 先生方にはお忙しい中、貴重な時間を割いていただきまして評価を行っていただきましてありがとうございます。

では、事務局の方から先生方からいただきました評価の中身について簡単に御説明申し上げたいと思います。

お手元に資料統分6-1というものがございます。内容として3種類ございます。まず全体的評価表といたしまして、個別評価を踏まえた全体的な評価書が1ページから2ページとなっております。その後、また項目別の評価調書の評価の欄をとりまとめた総括表が3ページから29ページになってございます。個々の業務内容の実施状況とそれを踏まえた評価の内容が書かれている個別の評価調書の方が30ページ以降となっております。評価調書案はこの3つのものから構成されてございます。

まず、簡単にですけども、各先生方からいただいた評価の中身につきまして、総括表に一括してまとめてございますので、こちらの方から説明申し上げたいと思います。

まず3ページを開いてください。第1の業務運営の効率化に関する項目については、評価といたしましてダブルAをいただいております。

この効率化につきましては、情報通信技術を活用した基盤整備、それから充実・拡充分野への職員の配置、そのほか業務経費の削減等、この3つが大きな目標として掲げられてございます。

実際どういう取り組みがなされたかを申し上げますと、プリズムを用いました報告形態の効率化、これに伴う新製表システムの導入、データの自動格付システムの開発、人事データと給与システムの連携、庁内LANを活用し紙ベースによる資料の共有等を排除したことによる業務の効率化が高く評価されたということで、ダブルAという評価をちょうどしたものと存じます。

1ページめくっていただきまして、4ページを御覧ください。

(2)の効率的な人員の活用という項目でございますけれども、こちらの方もダブルAをいただいております。

取組といたしましては、調査別の組織から機能別の組織への移行、スタッフ制というか、プロジェクト体制をきちっと作ったことにより、機動的、効率的な人員の投入ができたというこ

と、それから予定どおり職員の削減ができたこと、そのほか非常勤職員の投入の増を約31.8%程度、年間50名程度が削減できたこと、残業も大幅に削減ができていて、費用に換算いたしますと、約1.6億円程度の改善に大きく貢献しております。こういったところが高く評価されたということで、ダブルAをちょうだいしてございます。

では、次の5ページを御覧ください。

第2の国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上は、統計センターの主要な業務である製表業務についての内容になってございます。個別の調査につきまして簡単に申し上げますと、まず1番目といたしまして、(1)国勢調査はダブルAという評価をいただいております。

取組の内容といたしましては、格付事務におけるイメージデータの活用、そのほか検索データシステムの活用、こういったIT技術の活用による基盤整備と、こういった基盤整備を基に当初予定いたしました投入労働量をかなり大幅な削減ができたことが高く御評価いただいたものといたしまして、ダブルAという評価をいただいております。

評価結果に関して、取組内容の必要性について簡単に申し上げますと、秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保、統計技術の向上に資するためには、専門的な知識、人員を配置している統計センターに製表業務を実施させることが必要不可欠であるとされております。

効率性の面につきましては、スタッフ制の導入と機動的な人員の配置、OCRの活用そのほかイメージデータ、検索データシステムの活用と、こういった取組により効率的な業務運営ができていとされております。

有効性に関しましては、少子高齢化対策、地域・産業の振興と雇用対策等、地域における防災計画の企画立案など各種行政施策の立案などに幅広く活用されており、こういった面からも有効性においても申し分ないとの評価をいただいております。

次の6ページの方を御覧ください。2つ目の事業所・企業統計調査に移ります。業務の途中におきまして、特異値が発見されるなど、一部作業に遅れが生じてございますけれども、新たに親会社、子会社の名寄せにおける集計システム、あるいは事業所の異動及び事業転換に係る特別集計システムを開発するなど、見るべき点があったこと、そのほか今年度から新たに事業所・企業統計調査のほか、サービス業基本調査、商業統計調査の3調査同時実施ということが行われてございまして、こういった事務への取りかかりについて高い効率性が期待できるのではないのかという点が評価されたということでA判定をいただいたものと思います。

では、7ページを御覧ください。3つ目の住宅・土地統計調査におきましては、イメージデータからの自動格付システムの採用により、業務への投入労働量、人員が減少してございます。しかしながら、投入労働量全体が大きいということもございまして、まだまだ改善の余地があるということでB評価をいただいております。

では8ページを御覧ください。(4)の就業構造基本調査ですが、IT技術等の基盤整備、そのほか投入労働量におきまして、まだまだ改善の余地が大きく、もう少し今年度におきまし

では、業務運営の効率化を図る余地があり、さらなる努力が必要だということで、これもB評価をいただいております。

では、次の9ページの全国消費実態調査でございます。この調査は本年9月からの調査実施のため、本格的な業務は今年度に入ってからであり、昨年度はあくまで準備段階の事務ということでございましたので、評価は来年度というか、1年後に行うべきだということで、今年度は該当なしでいただいております。

次の10ページの全国物価統計調査の方ですが、まず情報基盤整備として、OCRの活用、そのほか事業所・企業統計調査とのマッチング審査の導入など、チェック審査事務の充実に努めている点などが評価をいただきまして、A評価をいただいております。

次の(7)の社会生活基本調査の方でございますが、この調査は、14年度までに主要業務が終了してございまして、15年度の業務は文書整理といった残務処理的な内容でございましたので、業務は実質的には終了ということで、該当なしということで評価をいただいております。

では次、11ページに移りまして、(8)サービス業基本調査でございます。この調査においても、当初予定しておりました投入量に比べまして、大幅な投入労働量の削減が図られているなど、効率的な業務運営が行われていることが特に評価されまして、A評価をいただいております。

次の12ページの労働力調査でございます。労働力調査は月次の調査ということで、なかなか短い期間での作業となったにもかかわらず、製表に関する正確性が保持されていること、かつ短い期間での締切りがある仕事でありながら、投入労働力の増加も若干の範囲で納まっておりまして、こういったところが高く評価され、A評価をいただいております。

13ページの小売物価統計調査でございます。先ほどもちょっと触れましたが、携帯端末プリズムの全国規模での導入により、大幅な投入労働力の削減が図れるなど、かなり事務の効率化が図られておりまして、ダブルAという非常に高い評価をちょうだいしております。

次の14ページの家計調査の方でございます。この家計調査でございますが、投入労働量をみますと、国勢調査に次ぐ規模となっております。なおかつ月次の調査ということで、かなり厳しい事務を強いられているにもかかわらず、製表における正確性がきちんと保持されており、また、特別集計への対応もできております。なお、当初の統計局とセンターとの間の事務分担等の変更に伴い事務が増加しておりますけれども、これはあくまで一過性の事務ということで、今年度きちとした対処がされているという改善もみられますので、こういった特殊事情の方も勘案していただきまして、A評価をいただいております。

では、次の15ページに移りまして、(12)個人企業経済調査でございます。この調査につきましても、きちっと日本標準産業分類改訂に対処した事務が行われておりますが、この事務のために投入労働量が若干増えたということがございまして、ここも当初からきちっと準備をし、それなりの対応ができたのではないのか、今後の業務運営にきちっと反映して欲しいということで、Bの評価をいただいております。

次の16ページの(13)科学技術研究調査でございます。統計局とセンターとの間の業務分担

の変更という、これも一過性のものがございますけれども、こういった疑義照会等に関する事務により、当初予定しておりました投入労働量がかなり増えたということで、更なる改善の余地があるということで、B評価をいただいております。

以上が国勢の基本に関する調査に関するところの評価でございます。

それから2の受託製表に関する事項の説明に移らせていただきたいと思います。

まず(1)国家公務員給与等実態調査ですが、決められた納期までに決められた、求められている内容のものをきちっと納めたということで、A評価をいただいております。

見るべき点といたしましては、各種チェックリストをPCにより作成し、従来はホストコンピュータで編集処理を行ってきたものにつきまして、各パソコン上でエクセル処理で行えるといったような効率的な事務ができる体制ができております。こういったところが評価いただけたものと思ひまして、A評価をいただいております。

次の(2)の職種別民間給与実態調査、この調査におきましても、委託者からの事務処理基準を満たすものとしたしまして、きちんと納期までに製品が納められているということで、A評価をいただいております。

次の国家公務員給与実態調査でございますが、かなり効率的な運営を行い、納期を大幅に短縮しているといった点が特に評価されたものとしたしまして、A評価をちょうだいしております。

次の(4)の公庫・公団等給与実態調査でございますけれども、こちらは受託の実績がなかったということで空欄ということにさせていただいております。

次の(5)国家公務員退職手当実態調査でございますけれども、こちらの方も特に問題もなく、既定の納期までにきちっと納品をしているということで、A評価をいただいております。

次の(6)地方公務員給与実態調査でございます。プログラム開発を含む作業をわずかな職員数アップで比較的短期集中で終了させているという実情がございまして、A評価をちょうだいしております。

それから、(7)の家計調査の特別集計でございます。まず14年調査につきましては、特段問題もなく納期まできちっと要求レベルのものを納品しているという実情がございまして、A評価をいただいております。なお、15年調査につきましては、まだ準備段階の事務でございますので、こちらにつきましては1年後の評価でより詳しく評価をいただくべきではないのかという御意見の方をちょうだいしております。

次の雇用動向調査でございます。当初決められていました納期より遅れて製品を納品してございますが、委託者側のデータチェック要領の不備によるものでございまして、締切りは遅れてございますけれども、センターの方では逆にこういった問題点があるということを指摘をした上で、必要な再演算を迅速に行うなど、トラブルにもきちっと対処ができており、特段問題なしということで、A評価をいただいております。

それから、(9)の賃金構造基本統計調査でございます。新産業分類への対応という新たな業務につきましても、きちっと対応し、納期までに必要なものを納めているという点が評価さ

れたということで、A評価をいただいております。

次の商業統計調査でございます。この調査では、納期の方が若干遅れてございますけれども、あくまでこれは委託者側から追加的な業務がございました関係上、やむを得なかったものということで、特段センターの対応に問題はなかったということで、A評価をいただいております。

次の(11)自動車輸送統計調査でございます。この調査でも納期が若干遅れてございますが、これも、委託者側から集計基準の変更をして欲しいという依頼がございまして、統計センターではこの依頼に対して迅速に必要な対応を図ったという事情がございまして、そのほか調査票の記入不備補記機能の追加など、こういった開発も行われているといったところが評価され、A評価というものをいただいております。

次の(12)内航船舶輸送統計調査でございます。委託者側の事務処理基準に基づきまして、納期までに必要な製品の方を納めているということで、A評価をいただいております。

次の(13)建設工事統計調査でございます。業務の途中で公団が独立行政法人へ移行したということで、集計項目の変更等が生じましたが、統計センターではこれに迅速に必要な対応を図ったということで、納期の遅れもなかったということで、特にこのところが評価をいただいたということで、Aという評価をいただいております。

次の建築着工統計調査でございます。比較的少人数で月次処理を的確に実行し、産業分類の改訂に伴う対応もきちっとできているということで、A評価をいただいております。

そのほか(15)のその他の受託製表の方でございますが、こちらの方も各委託者からの要求基準に応じたものを締切りに間に合うようにきちっと製品を納めており、また、委託者側からのクレーム等も発生していないということで、Aという評価をいただいております。

以上が国民向けのサービスその他の業務の質の向上に関する業務のうち、製表業務全般についての説明でございます。

では、次の24ページを御覧ください。3つ目の統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工でございます。これらの業務におきましても、きちっと委託者側からの事務要求に応じまして、事務処理マニュアルを作成するなど、適切な対応を採っているということで、Aという評価をいただいております。特に体制整備面、それから人材の確保、育成面では、新たに加工統計担当を設置するなど、体制の整備をきちっと採っているところも評価されたものだと思います。

では、次の4の技術の研究に関する事項でございます。新たにセンターの内部に研究センターを設置いたしまして、研究に向けた体制を整備し、幅広い分野にわたり効率と精度のバランスを念頭に置いた研究が進められているとの評価をいただいております。昨年度はセンターへの移行の初年度ということで、まだまだ研究成果の方は実用段階に適用するまでは至ってはいませんが、今年度以降、欠測値等の補定に関する研究成果の適用など効率性の向上がかなり期待できるなど、こういった様々な点を総合的に評価いただき、Aという判定をいただいております。

次の第3の予算、収支計画及び資金計画ですが、これは、財務管理の適正性についての評価でございます。昨年度は運営費交付金に若干残額が発生してございますけれども、これは業務に問題があったわけではなく、退職者の発生が当初の見込みを下回ったという事情、給与水準の引下げということのほか、非常勤職員の投入労働力の削減といったような効率的な業務の結果でございまして、こういった点を総合的に御判断いただき、全体的に適正な財務管理が行われているとの評価をいただきまして、Aという判定になってございます。

次の第4から第7までの事項でございますけれども、こちらは該当する事項がなかったということで、評価の方も該当なしとさせていただいております。

では、次の人事に関する計画でございます。研修体系の見直し、新たな人事評価制度の設計、専門知識を有する人材の確保、それから人員削減といった目標に掲げてございまして、実際に研修体系の大幅な見直しを行い、それから新たな人事評価制度の導入が進んでおり、それから人員削減も予定どおり進んでおります。そういった点が評価されたということで、A評価をいただいております。

では、最後のその他でございまして、良好な職場環境の実現のために、職員の安全対策面、職場の危機管理体制の整備、環境対策といたしましてリサイクル製品の使用の推進、職員のメンタルヘルス等の職場環境の整備といった目標に掲げてございまして、例えばメンタルヘルス面では電話健康相談を導入するなど、適切な対処が図られており、また、職場におきましても衛生委員会を設置し、喫煙対策が行われているなど、当初計画の予定どおりの対策が採られているということで、Aという評価をちょうだいしてございます。

以上が各先生方からいただいた評価の簡単な概要でございます。

それで恐縮でございますが、また1ページへお戻りください。

今、説明申し上げました各先生方からちょうだいいたしました各項目別の評価を踏まえ総合的に評価をさせていただいております。

1の業務の効率化の方でございますけれども、主に情報通信技術を活用した基盤整備、職員の重点的な配置、業務経費の削減等、こういった目標の分野のところ該当箇所になります。先ほど説明申し上げましたとおり、情報通信技術面におきましては、プリズムの導入、パソコン画面上での調査票のチェック、あるいはデータの自動格付システムの開発、人事データと給与システムの連携、会計システムとの連携等、こういった点がきちっとできているという点、また2つ目の職員配置につきましても、調査別組織から機能別組織への変更がきちっと行われ、機動的、効率的な要員配置が行われており、3つ目の経費削減の方におきましても、例えば庁内LANの活用によるペーパーレス化等、効率的な取組により、年間約1.6億円相当の費用改善等が図られておりまして、こういった目標につきまして、きちっとした対応がとられてございますので、所期の目標は十分果たされているのではないのかと、こういった評価の方をさせていただきたいと考えてございます。

2つ目の項目、国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上についてですが、統計センターのメイン業務であります製表業務を中心とした記述になってございます。各調査ご

とに事務処理マニュアルを作成している点、プライバシーの保護等を考慮いたしまして、きちっとデータ保護の管理規則を定められている点、投入労働力を見ますと、全体的に効率的な人員配置等、投入が行われていること、ITの導入、プログラムの変更、開発等の状況、そのほか要求者側からの定められました納入期限をきちっと守っているか等、こういった点を総合的に勘案いたしますと、所期の目標は十分達成されているのではないのかと思われます。

3つ目の財務内容でございますけれども、初年度という事情がございますけれども、会計処理には特段問題はないということで、十分に適正な財務管理が行われており、目標を達成したのではないのかと思われます。

4のその他の点でございますけれども、先ほどいろいろな点について説明いたしましたが、人事に関する評価あるいは研修システムの見直し、職場の安全対策、危機管理対策、そのほか良好な職場環境の実現では、リサイクル品の使用の推進、喫煙対策、あるいは職員のメンタルヘルス面での対策等、統計センターでどれだけ対応ができていたかといった点につきまして、各目標項目につきましても、きちっとした対応がとられているということで、十分に目標を達成されていると思われる次第でございます。

こういった1から4までの各項目につきましての評価の状況を見ますと、の中期計画全体の評価の方でございますけれども、5年間の中期計画のうち、1年間が経過したわけでございますけれども、各上の1から4の項目の評価の方を見ますと、5年間の中期計画のうちの初年度については、十分に中期計画というものは達成できたのではないのかとの結論になるのではないのかと思われます。今後ともこういったセンターにおける各種業務の効率化等の努力を今後とも一層進め、効率的な、一層効果的な業務運営にさらに努めていくべきではないのかとの評価とさせていただきます。

それから最後にの組織、業務運営等の改善、その他の提言でございますけれども、今までの評価では個別の調査ではBの評価をいただいたものもございまして、来年度以降はすべての個々の調査において最適な人員配置などを行うことにより、すべての調査におきまして高い評価を得られるように一層効率的、効果的な業務運営に努めることが必要との提言といったものが必要ではないのかと思われます。

以上が各先生方からいただきました個別評価の簡単な概要と、個別評価の方を踏まえました全体評価についての説明でございます。事務局からの説明は以上でございます。

溝口分科会長 どうもありがとうございました。

以上の説明につきまして、御意見、御質問がありましたら御自由に御発言いただきたいと思っております。どうぞ、どなたからでも結構でございます。

堀部委員 評価の欄の表記についてですが、先ほどどこかで該当なしという調査と、線が引っ張ってあるだけの調査があったのですが。例えば、18ページの(4)の公庫・公団等給与実態調査の評価欄のところは線だけになっていて、実績がないというふうに先ほど説明されましたけど。

福田企画調整担当補佐 18ページの(4)の公庫・公団等給与実態調査でございますけれども

も、当初は受託の予定がございましたけれども、実際受託の実績がなかったものですから、全く評価のしようがないということで、欄にはバーだけ入れさせていただいております。

あと何箇所か、例えば、9ページの(5)全国消費実態調査でございますけれども、一応準備段階の事務ということで、若干の業務は発生してございますけれども、中心的な事務はその一年後である今年度に行われておりまして、評価の対象となります事務が15年度にはあまり発生していないという事情もございまして、評価する対象の事務というのは若干はございますので、全くないというわけではございませんので、中心業務は翌年度に発生するという事情がございますので、誤解がないように該当なしとの表記で使い分けをさせていただいております。

篠塚委員 御説明ありがとうございました。

一つ教えていただきたいのは、例えば、24ページの3で最終的な個別の統計に関する評価がAとなっているのですけれども、今個々の御説明をいただきましたときに、13の統計調査の中で、2つが該当なしですから実際に評価の対象になったのは11だったわけですが、そのうちの住宅・土地統計調査と就業構造基本調査、個人企業経済調査、それから科学技術研究調査の4つがBでした。つまり11の調査の対象のうち4ということは3分の1がBだったのですけれども、それが最終的にAになったときにはどのような評価のもとでAとされたのかということをお教えいただきたいと思っております。何かウエートを付けたのかということがございます。

福田企画調整担当補佐 直接的にAとかBの数だけでは評価することは適切ではないと思われれます。各個別調査ごとに調査の規模も違いますし、発生する投入労働力も違ってきますので、そこはある程度そういった事情を考慮しながらの評価、事実上のウエートを付けた評価結果ということになっているのだと思っております。そういった面も考慮しながら、あるいは各項目別に事務処理マニュアルをきちっと作っているかどうかとか、共通的に見るべき点もございまして、そういったところを考慮しながら最終的に全体といたしましてAという目標が十分に達成されているのではないのかという御判断になったのだと思われれます。

篠塚委員 おそらく総合的な判断ですからそのようにしたと思うのですが、でもせっかくA、Bというように個々の調査ごとにちゃんと評価したわけですから、最終的にAに持っていくときに、今御説明いただいたように、例えば、国勢調査はもう全然ほかの統計と比べて規模が違う、投入量も違う、予算額も違うということでしたら、やっぱり簡単なウエート付けをした方がよろしいと思っております。ウエート付けして全体の中で国勢調査は、例えば0.6ぐらいのウエートであるといったようにそのようにして最終的にはAが幾つあったけれども、Bが幾つあったけれども、総合判断としてAになったというようにした方が、説明としては納得いくのではないかと思います。

福田企画調整担当補佐 確かに先生がおっしゃいましたとおり、こちら初年度ということもあり、各調査では業務量も違う、あるいは業務の性質も違うといったような評価に際してはなかなか難しい点もございましたので、今後は先生からの貴重な御意見といたしまして、こちらの方でもどのように評価、点数づけをすべきかについては、今後の宿題といたしまして、研

究させてさせていただきたいと思います。

佐藤委員 大体Bがついているのは稼働が大分オーバーしてしまったためのようです。ところが今度、委託調査の方を見ると全部Aなんです。それはやっぱりちょっと何か統一されていないなどの印象を受けるのですけれども、それ個々に調書について、例えば、予定どおりの稼働以下でできたらそれはAになり、それからものすごく稼働を効率的にしたらAAになり、やっぱり超えたらBかCとなるのではないのでしょうか。ただそれは篠塚先生がおっしゃったように、トータルとして15万人日との予定で、結果として1万3,000人日減らしているの、効率性という意味ではAAというようになるのではないですか。それから個々の調査は各調査ごとにある程度の基準を置いて見て、その上で全体としてこうした評価になりますという言い方の方がいいと思います。だから、判断基準となる数字がなくて、そのままずっとこれがAで、あとちょこちょこBがあるわけですから、何かやっぱり基準を設け、個々の評価結果をAA、A、Bで出した上で、トータルとしてこうした評価になりますとした方がいいと思うのですけれども。

福田企画調整担当補佐 佐藤委員がおっしゃいますように、確かに効率性の面では、投入労働量が個々の調査ごとにみたときにどうであったのかとか、あるいは必要性、有効性の点におきましても、例えば、納期あるいは委託者からの要求レベルに達した正確性の高い製表事務を行っているのかとか、そういった点も目に見えるような形で評価して、それが総合評価にどのように結びついているのか明らかになった方がよいと思われませんが、なかなか点数化できないような定性的な評価になってしまうところもございまして、ほかの独法の状況等を見ながら、目に見える透明性の高い評価ができるように、事務局としても今後工夫させていただきたいと思います。

篠塚委員 評価とはとても難しいものですので、注文だけ出してもお答えも難しいと思えますけれども、一つお聞きしたいのは、AAとのスーパーですぐれているとの評価が付いているものがあるのですけれども、そうすると、先ほどAという評価をした場合の説明として、まだAの場合はAAに比べて改善の余地があるという、そのような御発言だったわけですが、そうするとAAになるともう改善の余地がないとなるのでしょうか。

福田企画調整担当補佐 AAとの評価はあくまで15年度の業務において当初の計画以上の成果を上げたということでございまして、また翌年度になれば、また普通に業務をすればA評価ぐらいになるのかもしれませんが、更なる改善努力を行い、新たな技術開発を進めるとか、より効率的な人員の投入等が見られれば、再びダブルAになることもございまして、あるいは予期せぬ事態が起こりまして、投入労働がかなり増えれば、逆にダブルAからBぐらいまで下がるとか、そういったところもあるかと思えます。ですので、そこは各年度ごとに評価をいただくということになるかと思えます。

森末委員 ちょっと気になる表現があったので質問したいのですが、受託業務のところでは納期が遅れたもので、顧客の責任だとはっきり言っていたところと、他責事由だということではっきり顧客の責任だとは言っていないところがあり、二種類の表現があるのですけれども、私

たち仕事をしていると、納期が遅れているのは民間によくあるトラブルなのですが、お互い言い分があるものです。この手の場合は、明らかに顧客の責任であると言い切っているのばかりを書いているのでしょうか。これは公表されるのですから、受託元の相手も評価書を見ることになるので、確認をしておきたいのですが。

福田企画調整担当補佐 受託製表の方で幾つか納期が遅れているものがございますけれども、当局から統計センターにもよくよく事情を確認いたしましたところ、統計センターの方には責任はなく、委託者からの指示ミスとか、あるいは当初予定していなかったような業務を委託者から追加的に依頼されたといった事情がございます。逆に統計センターは指示内容にミスがあることを発見をしたりとか、あるいは短い期間ながら新たな追加業務にきちっと迅速に対応したと、そういった事情が見られましたので、一応納期が遅れていますけれども、問題なしとの評価をいただけたと認識してございます。

篠塚委員 単純な質問なんですけれども、予算の執行で全体の予算の10%が執行されなかったという御説明で、そしてその説明は退職者が少なかったからだとということでしたけれども、この場合は返還するのですか。それとも、次年度になったら、今度は逆に見積もりが予定していたよりも多くなったときは、今度逆に赤字になってしまいますので、転用が可能なのでしょうか。これは何年間ぐらいまで転用できるのかという質問でございます。

山崎総務課長 5年間の中期計画がありますので、その期間を終了してなおかつ残額があれば、基本的には返還になるということでございます。

溝口分科会長 ほかにございましたら、どうぞ。

大場委員 人事に関する計画、例えば、29ページのあたりなのですが、こういうことをしましたという表記・記述が目立つのですが、電話健康相談をしましたとか、産業医が職場巡視をしましたとか、これこれこういうことをした、したということばかりで、その結果はどうだったのかという評価があまりない。例えば、電話健康相談を利用した人がこのぐらいいましたとか、産業医が職場を回ったことで何か早期発見をした人がこのぐらいいたとか、そういう結果が書いていないというのは評価の書き方としてはあまりふさわしくないのではないかと、もうちょっとその結果どうだったということを書くべきではないかと思えます。

小笠原委員 先ほど御説明いただきまして、結局この総合評価というか、最終的な結論というのは2ページに中期計画全体の評価ということで、この項目別評価等を踏まえた中期計画全体の達成状況ということになるかと思うのですが、ここで今まで各項目別には評価をAからDまでということをやっております、中期計画全体の評価の中では結局総合すると、ここは十分に目標達成という、これは結論としてはAだということなんですか。

福田企画調整担当補佐 一応、こちらの方の認識といたしましては、事実上Aに相当するような大体予定どおり進んでいるのではないのかという認識でのそういった表現で書かせていただいております。

小笠原委員 ちょっとプロセスを確認したいのですけれども、私自身は部分的な評価を担当しまして、それでその部分に関する評価をしたのですが、全体評価としてはこうなります

というのは、この場で決めるという認識でよろしいのですよね。それなら、どういうプロセスでこういう形で中期計画全体から見て十分に達成したと結論づけられたのかを教えてください。

福田企画調整担当補佐 中期目標というのが5年間の目標がございまして、それを受けまして5年間中期計画が策定されており、15年度における目標というものがございまして、この15年度の目標がほぼ達成できていれば、まず初年度としての中期計画はというものを達成できているのではないのか、あるいは達成できていなければ中期計画の方も達成できていないということで、御評価の方をいただきたいというふうについてございます。

山崎総務課長 ただいま御質問のございましたこの全体的な評価表というのは、この報告書の一部になるわけでございますので、この分科会の先生方でオーソライズされるというものでございます。

小笠原委員 ちょっと先ほどの予算の執行にもかかわるのですが、例えば、中期計画という全体の5年間の流れでいいますと、初年度において未執行分が11億ほど出ました。そうするとその部分が今後どういうふうになっていくのかというようなお話もお聞きしながら議論をした上で、それだったら長期的にも最適化されているということが確認できると思いますので、そのあたりちょっとお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょう。

山崎総務課長 基本的にはこの予算を作ったとき、独法の予算を作ったときに見込んだのと実際の執行とがちょっと違ってしまったというものでございますけれども、ここはちょっとまだ精査はしていませんけれども、今後の退職の見込みの精査というのを通じましてどうするか対応をしていくものではないかと考えています。ただほかに残ったからといってほかの事業に流用するとか、そういうことはできない予算でございますので。

溝口分科会長 ほかにございませんでしょうか。

佐藤委員 話が変わりますけれども、16年度予算というのはもう確定されているのですか。それでそれぞれもう各項目ごとに稼働の予定だとかという積み上げがあって、もうその予算どおりに執行しているという、その辺の話ちょっとどっかで話があったのか忘れちゃったけれどもね。

福田企画調整担当補佐 具体的に、この分科会の方ではあくまで15年度の業務の評価ということでございまして、新たに今年度の業務や予算などについての説明とはちょっとしてございませぬけれども、一応確定いたしまして、計画に基づいて今のところ粛々と執行しているという最中でございます。

佐藤委員 来年になりますと、また今度それに対して評価をするということになるわけですね。

山崎総務課長 はい、そうです。

佐藤委員 わかりました。

溝口分科会長 御質問出もほぼ出尽くしたようでございますので、資料1の全体的評価表、項目別評価総括表及び項目別評価調書について分科会として決定をしなくてはならないわけでございますけれども、まず項目別評価総括表及び項目別評価調書、これはおのこのものでござ

ざいますけれども、それにつきまして皆様何か御意見承りたいと思いますが、原案どおりでよろしいでしょうか。あるいは部分的にこういう用語を加えるべきであるという御意見等がございましたならば御意見賜りたいと思います。全体的評価表はまた別に御議論いただきたいと思います。

小笠原委員 その前に前提をちょっと確認したいのですが、実際に国民に公表するような場合に、この全体的評価表と項目別評価総括表と各業務の調査内容をそれぞれ細かく評価したものが一緒になって公表されるのか、それともこの数枚のものだけが公表されるのか、といいたすのは、この項目別評価の総括表で各先生方が書かれた部分はかなりこちらの下表を前提にしまして、かなり数量的な部分はそちらで押さえてあるのでこちらに書いていらっしやると。それを取りまとめられているのはこちらの全体表だと思うのですが、実際にはどこまでを公表するのか確認したいのですが。

福田企画調整担当補佐 資料6の1の評価調書といたしまして全体的評価表、それから総括表という個別の調書の3種類がありますがすべて公表するという予定であります。

小笠原委員 分かりました。

篠塚委員 小笠原委員の御指摘くださいましたように、私が一番最初にも申し上げましたのですけれども、やはり最終的な全体評価表について、これですよいですよという総合判断に持っていくまでに、もう一つ何かやっぱり説明が必要なような気がいたします。個別のところは今御説明いただいたので、個々のところではA AであったりAだったりBだったり、あるいは効率性がよく達成されたりというようなことが既に情報として出ているのですが、そして全体の2枚か3枚のところの総括表に至るまでの説明が親委員会にいったときにまた出てくるような気がいたしますので、それは何かどのように工夫したらいいのかちょっと分かりませんが、もう一枚簡単な間をつなぐものがあつた方がよろしいかなと思います。

溝口分科会長 全体的評価表につきましては、もし必要ならば文言等の追加をまた別途御協議いたしたいと思ひますけれども、一応その基礎になります個別の評価につきまして、御異論がなければ、これについてまず先に決めたいと思ひます。是非ともこの文言追加すべきだ等の御意見ございましたらまた御発言いただきたいと思ひます。

佐藤委員 全体的評価表にももうちょっと数字を入れていただきたいと思ひますけれども。というのは、全体としての目標をどう設定したらいいのかとか、みんな大体話が定性的になっているのです。そこで評価の方法がまだ定着していないということもあるかもしれないのですけれども、民間企業でいえば今年幾らもうける、売り上げ幾らで何%伸ばすのだ、経常利益は幾ら出すのだと。あとはもう自由なんですよ、要員何人採用しようが削減しようが、要するに数字一つなのです。いろいろ受注額増やすとか職員のレベル上げるだとかというのは後ろにあるのですけれども、最後は言葉一つで利益幾ら上がるのという話になるのです。それで代表されると。

ですから、言葉がたくさん書いてありますと、最終的に何をどうするのという話になってしまひまして、成果については、やっぱり徐々に民間並みに幾らもうけたのと、予算額に対して

幾ら削減して幾ら残したとか、数字で示した方がよいと思われるのですが。その数字に至るまでの間の努力というのは、また言葉になってしまうかもしれませんが。ということでもう少し説得力を持たせるためには、もうちょっと数字をちりばめて、これだけ努力したのですよと説明しないと、この場はいいのですけれども、他の独法さんとの比較の中において、ちょっと迫力がなくなってしまうのではという気がするのですけれども。

溝口分科会長 この全体的評価表につきましては、いろんな独法から出ておりまして、大体それに合うような格好で作成する必要がありますので、どうも全体的評価表の直しというのはある意味難しいのですけどね。その点また御意見をいただきたいと思いますが、全体的評価表につきましては、こういうことを入れておいた方がよいという御意見がありましたら、ここで是非御発言いただきたいと思います。

小笠原委員 全く私も佐藤委員と同意見なのですけれども、そうはいえ、かなり期限も迫っていると思いますので、例えばですが、この下にあります個別の詳細な評価の表のイメージとしてはその横に各先生方の評価を入れて、それでここで言っている十分評価に当たるということの裏付けは左側にあるこういった定量的なデータに基づいているのだというふうにもし変更できれば、必ずしも定量的な話の説明は全くされていないということではないので、補充できるのではないかと思うのですが。

今ですと、今日の御説明だけを聞いていますと、まさに今、佐藤委員の方からお話ありましたように、定性的な部分でのお話だけでして、例えば、従業員の削減とかスキルのアップとか言われても何がどのように変わっているのかがちょっと見えにくい格好になっているかと思えますので、その辺少し工夫していただければなと思っております。

福田企画調整担当補佐 様式の方でございますが、ある程度ほかの独法との横並びをみながら同じように作っているところもございまして、ちょっと見た感じが変わってしまうという面もありますので、なかなか大幅な様式変更は難しいところもありますが、可能な限りしてみたいと思いますけれども、ちょっと難しい面もあります。

山崎総務課長 むしろこの今のこの全体的評価表の中に、例えば、従来ベースにして投入人員が削減されると書いてある人数とかを、その下の個別評価調書から具体的な数字を入れられるものはちょっとこちらに持ってくるという工夫は可能かと思えます。

溝口分科会長 私なりに理解しておりますと、今まで御発言いただきました問題で数字を入れるという御意見が一つと、それからBの評価のものについていろいろな問題があったというようなことを御指摘なさっておりますので、各項目のところではBの評価あったところですね、これについては来年度以降解決可能であるというような一文を入れることによって総括表や個別評価調書と結びついてくると思うのですね。全体的評価表はA評価に対応した評価内容になっておりますので、Bのついた分についてほんのわずか数行でよろしいのですが、問題のあったところは、一年限りのものはもう問題ありませんし、それから今後こういうところに注意すれば十分解決可能だという文章を入れていただければ、Bのところは全部解決したとして、Aの方へ持ってくるということは可能であろうということで、そのところに一文を入れ、例え

ば、予算執行のところについても一過性のものなので十分今後解決可能であるというような文を入れていただいて、それで総合評価に持ってきてはというふうに考えますけれども、いかがでございましょうか。そういうことでよろしゅうございましょうか。

そうなりますと、これは細かい点でございますので、改めてここで会議を開く必要もないと思いますので、私と事務局との協議でそのところちょっと文章を入れさせていただいて、それで解決いたしたいと考えますが、よろしゅうございましょうか。

それでは、一応全体評価を除きまして御承認いただいたものといたします。

全体評価につきましては、先ほどから御意見が出ておりますように、可能なものについて若干の数字を入れた方がより説明が可能であると考えられますし、それと全体に評価が、BがあるのにA評価になっているのはおかしいということにつきましては、先ほど私が申し上げたような個別表のBについての補足の説明を加えるということでこれをつなぐというようにしてはどうかと存じますが、そのほかに何か全体評価に関しまして御意見がございましたら、御発言いただきたいと思います。

藤原委員 今回は今までの実績に関する評価であるので、ここに提出されていますフォーマットに沿って、今拝見したとおりで私は問題はないと思います。これを公表するに至りましては、普通の企業体でありますと、実績を評価すると同時に、じゃ、次はどうするのかということが同じ場面でやはり何らかの表明がされているのが自然じゃないかなと思うのですね。これはあくまでも今までの実績に関する評価で、今後このあたりが重点的に改善の余地があるとか、このあたりが大幅な人員の削減に寄与するとか、あるいはこのあたりが技術的に大変大きなブレイクスルーがありそうだとか、そういうふうなことがやはり見えてくる方がいいんじゃないかなという気がいたしまして、評価は評価としてこれは実績に関する評価でございますからこのとおり発表するをいたしまして、その同じ発表の場でこれに何らかのことを付け加えるという事は可能なのでしょうか。

山崎総務課長 この独法制度の全体的なスキームが5年間の中期計画を立てて、それで各単年度ごとに評価をするとのシステムになっているため、確かに御指摘はごもっともですが、例えば重大な欠陥が見つかったとか、それはこう改善すべきだというのは指摘するのは当然なんでしょうけれども、今後どうするかという話は中期計画の5年間の半ば以降というのか、終わりごろとなりますか、それぐらいにはちょっと視点としてはあるのでしょうかけれども、やっぱり5年間の評価の1年目というのであれば、なかなかちょっとそこまでは、具体的にこういうのはやっぱりここは改善すべきだというのはどんどん御指摘は可能だと思うんですけども、そこは制度全体のスキームから申しまして、あまり初年度からここというのは余り出てこないような全体的な枠組みになっているのかと思われませんが。

藤原委員 もしそうだとすると、中期目標に関してはこれと一緒にもう一度サマリーみたいなものが発表されるんですか。

山崎総務課長 中期目標は5年間の計画ですからもう既に公表されています。

藤原委員 公表しているから終わりという話ではなくて、これを受け取る側がこれを見ると

きにそれに照らし合わせながら見れるような工夫ができるかどうかということです。

山崎総務課長 付録でつけることは可能なかもしれませんが。

藤原委員 つけることは大変簡単にできることで既に発表されているのでそれにリンクを張るということではできると思うのですけれども、既に発表していますから、それを御覧くださいという方法もあるかと思えますけれども、普通、株主総会とか、そういうところでいろんな表明をなさるときには、基本的にはそこにお集まりの方に一番分かりやすい形で説明するというのが原則だと思います。既にここに小冊子も印刷されて出来上がっておりますから、これを御覧くださいということでは、株主総会も多分承知していただけないと思うので、実績に対するこれだけコンサイスな全体評価があるとすれば、中期目標をやはりコンサイスな形でもう一度、踏まえた形でこれにつけ加えるということはお考えになってもいいのではないかなと思ったので発言いたしました。

福田企画調整担当補佐 30ページ以降の個別の調書には、一応、中期計画における目標についての記載はございます。そのほかちょっと別の形の資料にはなるんですけれども、参考資料として前回の分科会等にも添付しておりますが、中期計画、それから中期目標、それから各年度計画の対照表みたいなものもございますので、そういったものは活用していただければ、普通の方々にもある程度分かりやすく全体像を把握していただけるのではないかと考えてございますので、そういったものも活用していただければよろしいのかなと考えます。

藤原委員 既にそういう資料が存在するという事は承知しておりますけれども、私の趣旨は、それをこの発表時に何らかの形で、それを盛り込んだ形で発表資料に作成することができないかということをお願いしているのです。

要するに、マスコミの方もそれから一般の方も御覧になるにしても、何らかのバックグラウンドになるような資料が、1枚でも構いませんから、要するにこれ自体発表資料として、例えば初めの数ページをお使いになるのか、あるいは30ページまでお使いになるのかわかりませんが、これですらもう既に私は長すぎると思うのです。しかしながら、ここに不足しているものは中期目標が何であるかということをもう一度おさらいする必要があって、それが添付されているのではなくて、むしろそれをフレームワークとして資料の中で位置づけるというような資料を、少なくともプレス用資料としては作成なされた方がいいのではないかと考えてございます。

山崎総務課長 例えばこの三段表で中期目標があって、単年度目標があって、それで例えば初年度の評価はこうなっていると、そういうようなイメージでしょうか。

藤原委員 それはこれのいわばデザインですよ。

山崎総務課長 この分厚い評価調書全体を1枚かなんかにまとめた、1枚にまとめたという、そういう……。

藤原委員 そうではなくてね、それを一言で言うことは難しいと思えますけれども、A4ペラ1枚ぐらいで、要するに中期目標の目標項目はこういうものがありましたと、そしてそれに対してセンターの方はこのあたりが大変重要なものだと考えておりますと、それに対して初年

度でこれだけの成果が上がっておりますというような、要はこれを全部紐解かないとすべてが分からなくて、なおかつ紐解いても先ほどから出ておりますように、全体評価がAなのかBなのか、あるいはAAなのか分からないような資料ではなくて、要するに我々は自信をもってこれだけの中期目標に対してこれだけを達成しましたというのが分かるものです……

山崎総務課長 中期目標と成果みたいなのを1枚紙にするという趣旨ですね。分かりました。それはちょっと工夫してみます。

藤原委員 ここにすごく細かな資料があるのですけれども、全体は何なんだという文言が抜けているような気がするのです。これが一番多分メディアにしても、それから一般の方もホームページを御覧になったら一番初めに知りたいところはそこなのではないかと思うので、それを細かく見るための資料はもう既に十分に整っていると思いますので、全体が分かるようなものでございますけれども。

山崎総務課長 それは本体なり、あるいは記者発表資料でちょっと工夫したいと思います。

藤原委員 ぜひお願いいたします。

溝口分科会長 おそらく民間企業と比べて広報活動が不十分であるという御趣旨の御発言だと思いますので、一つその点は重要な御指摘かと思っておりますので、事務局の方でお考えいただきたいと存じます。

篠塚委員 今の藤原委員の意見に賛成です。そしておそらくこれは今全体的評価表の2ページのところの 番目の中期計画全体の評価というところが、ここ3行で書かれているのですけれども、こここのところをきちとなさってくださいればよろしくて、そのためにページが1ページ増えるかもしれないと、私の理解ではそのようなものなのですからけれども、それでどうですか。

藤原委員 それいいですね。

篠塚委員 多分ここがあまりにも位置付けがあっさりし過ぎているからだと思います。

山崎総務課長 じゃ、この辺ちょっともう少し膨らますなり工夫したいと思います。

小笠原委員 その部分を何か非常に分かりやすく作っていただきたいと思っております。例えばいかどうか分からないですけれども、例えば5年間で100冊本を出しますと宣言してて、今年は一応20冊を目標にしましたと、その結果25冊までいきましたと、すると来期以降は残り75冊なんだけれども、さらに目標をちょっとやっぱり100冊以上クリアするためにこれぐらい掲げますぐらいの何か、多分こちらの統計センターであればそれが作業時間、項数だったりすると思うんですけれども、そういう分かりやすい指標で、今藤原委員の方からお話がありましたように、ペラ1で、何かこれ一覧するとこれぐらい、こういう目標を掲げてこういう進捗をされているということが分かるような表を添えていただければと思います。

溝口分科会長 ひとつ公表資料につきましてはいろいろ御工夫いただきまして、直接この資料を付けるか付けないかは、これいろいろ横並びの問題もありますけれども、御苦しいかどうか、そういうことで処理させていただきたいと思っておりますが、皆様、よろしゅうございましょうか。

森末委員 念のための確認なのですけれども、公表等の関連で今日は評価調書(案)という

資料統分6 - 1というのを出されて、これ3種類の文書があって、今御議論は全体的評価表のようだけれども、総括表、ここまではそれぞれの委員が一生懸命ヒアリング等をされて作られたのですが、項目別評価調書は前回のものにプラスして評価か何か書き加えられているんですが、この項目別評価調書の文責者、作成者、この文章の責任者も統計局ではなく、全部評価委員会委員の責任になるということによろしいのですよね。

福田企画調整担当補佐 そうです。あくまで一義的に、一義的っていうのも変だけれども、親委員会での了承という手続が残されておりますが、この分科会というところがクレジットというか評価者になると思います。

森末委員 総務省の独立行政法人評価委員会ということによろしいのですよね。

溝口分科会長 分科会で一応承認されたものですから、まずは分科会の報告というわけですね。

森末委員 そうですよ、そういうことですよ。

溝口分科会長 そういたしますと、大筋ではこの全体的評価表は大体御承認いただけるんじゃないかと思いますが、これに数字を若干加えると。それからもし可能なら、2の中期計画全体評価について正式文書の附属資料とするかどうかは別として、これに対する解説のような資料を作るとの2つの点を加えた上で、さらに、御修正がございましょうか。

篠塚委員 この全体的評価表1ページ、2ページの言葉の表現の仕方をもう少し工夫していただきたいと思います。例えば、まず1ですけれども、業務の効率化に関して、まず最初の2行では業務経費の削減が中期計画に掲げられたと、そして次の3行目から4行目、5行目にかけて所期の目標は十分達成されているということですが、所期の目的が一体どうだったのかというのを少し書いた上でないと、どれだけ十分に達成されたのかが分からないとか、それから次のセンテンスでは実際にさらにとということで、年間1.6億円も費用の改善に貢献したと、でもそうだとするとこれは目標どおりであったのかどうかとか、それも確かにこの数字が出れば大変な効果だと思うのですけれども、これも評価ですから、こうした目標に対してこうした成果を挙げたので、十分に達成できたという表現にするかとか、最後のここの1の業務の効率化の最後のところだけれども、云々書かれておまして、これは時間を要するものもあるが、今後毎年具体的な目標を立ててこれを確実に達成していけば、実現は可能であると考えられるというのは、誰がどのように言ったのか、我々が言ったのかちょっと分からないのですが、時間をかければ、そして、具体的な目標を立てれば実現可能であるといったような評価は適当ではないと思います。中期計画で一応計画を立てたわけですから、その計画に即して業務に取り組み、どういった成果を挙げ、目標は達成されたのかどうかの結論をここに書くべきであって、それに対してやっぱりいろんな事情があってこれはうまくいかなかったなら、うまくいかなかったと書くべきであるし、ここで実現可能であると考えられるという表現もちょっと工夫していただきたいと思います。

2番目、国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上というところだけれども、これも最初のパラグラフの最後のセンテンスだけれども、ここでは目標は大幅に上回って達

成されたので、AAとの評価になっているのですが、そしてその後で今後とも情報基盤の整備、効率的な人員配置に一層努力するべきとなってしまいますと、最初の文章、せっかく評価しておきながら、まだまだもっともっとしろということになって、結局これはAだったのかBだったのかというように読めてしまいますので、非常に良かったということならば良かったという文章を書きあらわすべきではないでしょうか。それから、次の3番目の財務の内容の改善に関しましても、ここもこれこそ中期計画との関係で書くべきだと思うのですが、最終的には最後の締めところで十分に目標を達成したと考えると書いていますけれども、財務のところこそきちっと中期計画の中で毎年何%の削減をするとかということ掲げたわけですから、そしてこれは今回十分に目標は達成したとはっきりと書かないと、ここを読んだ限りでは何だろうというふうに思われます。等々ありますので、文章をもう少し注意していただきたいという注文でございます。以上です。

山崎総務課長 若干あいまいな標記がございますので、その表現はもう少しはっきりと書くように工夫したいと思います。

溝口分科会長 今の御指摘は、おそらく多少リップサービス的に将来こういうことをしたいというのを少し書き過ぎたためではないでしょうか。十分評価されたのなら、そこまでいいじゃないかというような声かとも思うのですが、多少そんな感じもしない部分もないわけではありませぬので、その点については多少の工夫を施した方がよいかと私も思います。

そういうことでございますので、中核の部分についてはそれほど御異論がないのではないかとと思いますが、皆様、よろしゅうございましょうか。

そこでただいま出ました幾つかの改正点につきまして、もう一回会議を開くのもちょっと大変だと思いますので、もし皆様の御了解を得られれば、私と事務局で相談いたしまして少し文章を書きかえて、それを皆様にできるだけ早めにお知らせして決定に変えたいと考えますが、よろしゅうございましょうか。では、そのように処理させていただきたいと思います。

もう一つ議題がございます。それは議題2でございますが、15年度財務諸表の承認の問題に進みたいと思います。

前回統計センターより説明がありました15年度財務諸表につきましては、主務大臣であります総務大臣の承認を受けなければならないとされております。この主務大臣の承認に際しましては、あらかじめ総務省独立行政法人評価委員会、これは親委員会でございますが、この意見を聞くことが求められております。ただ、総務省独立行政法人評価委員会議事規則第9条によりますと、統計センターの業務や財務状況を最もよく把握している当分科会の決議をもって委員会の決議とすることができると規定されておりますので、当委員会でこれを審議いたします。

そこで財務諸表につきまして特別御意見はございますでしょうか。これは前回御説明があったところでございます。

小笠原委員 これは今期ではなくて来期以降のちょっとこれは独法として考えなければいけない点だと思うのですが、現在費用進行基準を操り、交付金さえも収益化しておりますが、実際にこちらのこの項目別評価の要約のところにも書いてありますけれども、1.6億円の費用改

善というか、要するに業務の効率化によって、いわゆる費用の削減というのが出来たわけですし、これは本来一般企業であれば、それは要するに費用のマイナスですから利益になるわけです。今回は該当なしということですが、剰余金というのは今の費用進行基準を採用している限りはなかなか出にくい話でありまして、1.6億円、初年度でそれだけの効果が得られるのであれば、これからは費用進行基準ではなくて、ちょっと収益化ができる、それで業務の効率化であれば、それを特定の剰余金の中に入れられる会計方針をもう検討してもよろしいのではないかと思いますので、どのように考えているのでしょうか。

中川理事長 私どももそういう問題意識は持っておりまして、今回はこういう形で決算をいたしましたけれども、将来的な方向も含めてちょっと検討をしていきたいと考えております。それで可能であれば、もう少し明確にそういったものを表せるような基準を採用できれば、その方向で考えていきたいと思ひ、今事務的にいろいろ検討させているところでございます。

小笠原委員 具体的に、成果進行基準を採るだけの社内内部管理体制が、もうかなり整備されているとみてよろしいのでしょうか。

中川理事長 一応工程管理システムとか、それから会計システムと、そういうものをつなぐことによってどういったところまで把握できるかとか、それは今検討されているところでございまして、その結果によって考えていきたいと、このように思います。

溝口分科会長 ほかにございませんでしょうか。

本日出ました御意見は、今後の問題と考えるとよろしいかと思ひますので、この財務諸表そのものについては特段の御意見がなかったようでございますので、特段意見なしということで、承認という手続をとりたいと思ひますが、よろしゅうございましょうか。

以上で議題は終わりましたけれども、最後に統計局長より評価調書の取りまとめに当たりましての御発言がございまして、よろしくお願ひします。

大林統計局長 一言御礼のごあいさつをさせていただきたいと存じます。

独立行政法人統計センターの評価につきましては、大変御多忙の中、多大な御尽力を賜りまして、誠にありがとうございました。何分にも独法化後、初めての評価ということでございましたので、評価をいただくに当たっての考え方でございますとか、あるいはその基準、指標等々を決めるところから始まりまして、本日の評価調書の取りまとめの最終的な審議に至るまで7カ月半にわたりまして、大変御尽力くださりまして、感謝の言葉もないわけでございます。

特に、個別の評価に当たりましては、大変厄介なお仕事をお願いいたしまして、大変お忙しい中、本当にありがとうございました。今後とも統計センターのみならず、統計行政全般につきまして、御支援いただくとともに、いろいろと御指導、御鞭撻を賜れば大変ありがたいと思ひしておりますので、どうぞ、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。本当にありがとうございました。

溝口分科会長 どうもありがとうございました。それでは統計センターの15年度評価につきましての審議を終わります。本日はどうもありがとうございました。

(以上)